



外国出張報告書

平成 26 年 3 月 30 日

1. 出張国名 ガーナ、エチオピア
2. 出張月 平成 26 年 2 月～3 月
3. 出張目的 CARD に貢献する稲生産技術の普及促進に関する情報収集：B
4. 成果の概要
 - (4-1) ガーナ国では、アフリカ稲作普及促進の研究の一環として、タマレ、クマシでのため池調査を行った。
 - (4-2) エチオピア国オロミヤ州西部ではコメは **Cash crop** であり、ガーナと同様に消費者の嗜好に合った香り米であるスーペリカ (**Superica**) の作付けが広がっている。
 - (4-3) エチオピア国オロミヤ州西部で灌漑を行う農民が、野菜には使うものの、コメには灌漑用水を使わない理由は、現在栽培されている陸稲コメ品種が 120 日という長い栽培期間であり、灌漑するのであれば、短期で収入を得られる野菜栽培が魅力的なため。逆に、生育期間の短い (例えば 90 日程度) 品種があれば、灌漑稲作の普及の可能性はある。
 - (4-4) 一方、当地の灌漑公社事業及びその維持管理は、受益者負担がなく、遠からず、運営上の問題が表面化するものと思われる。